

各会場における新病院建設に対する質問と回答

発言内容	回答
人口減少は明らか。人口と病院の統合はセットで考えるべきである。	新病院は医療の提供のみならず、子育て支援機能も付与することで、子育て世代の移住を促す契機としたいと考えている。また、介護需要の増加に伴い、在宅医療を強化し、安心して生活できる地域医療体制を構築する。
江刺地域の医療をどう考えているのか。	江刺地域においては従来通り、県立江刺病院を地域の医療拠点としつつ、さらに市立医療施設等との連携を深め、医療の質、量の向上を図っていく。また、公共交通を充実させることで、通院等アクセス面での利便性を高めていく。
5つの医療機関を残すことの根拠が無理やりすぎるのではないか。医師不足が続く、赤字経営が続いている中で、新しい病院を建てることに反対である。	コロナ感染症を経験したことで、国の考えは病院の「統合」から「連携」に変わってきている。公的病院の役割は採算性だけで考えることはできない。医師確保については、まずは、胆江医療圏として目指すべきビジョンをしっかりと定める必要がある。その方向性に沿って、市長が率先となり、ヘッドハンティングなど医師確保にあ
今回提示されている説明内容は案なのか。	今回の説明資料は現時点の案であり、決定事項ではない。皆さんの意見をお聞きし、さらに良いプランを策定する。
団塊の世代がすべて後期高齢者に突入する2025年を想定して、地域医療の計画を立てていかなければならない。県との調整や圏域の他の市町村の調整も必要であり、それらを踏まえた形で提案してほしい。	広域医療という観点は重要であり、県や他市町村とも話し合いながら、進むべき方向性を見出していく。
公立病院で産科をやるべきである。	産科を設置するためには、産婦人科医を含め、複数の医療従事者を確保する必要があり、現状では非常に難しい。ただし、市内での分娩を諦めたわけではなく、将来的に新病院でも産科を設置することができるよう、様々な手段を講じていく。
新病院の建設場所については現地改築が良いのではないか。	現地建て替えは、安全性や費用の面から好ましくないと考えている。
県立の江刺病院を譲ってもらい、周産期センター単独に特化してはどうか。	県と市では、それぞれの病院が担っている役割が違うため、譲ってもらうという考えはない。県とは地域医療に関する協議の場を設けており、それぞれが策定している計画等との調整は今後も行っていく。
新病院の建設について、費用はクラウドファンディングを募ってはいかがか。	市の財政への不安による提案と受け止める。新病院建設費用は、市の財政で賄うことができる。赤字になるという先入観を持っているとなかなか先に進まない。市民が納得できる資料を提示し、不安の解消に努めていく。
新病院の建設について、若い世代に託せるようにしてほしい。市民一人一人が参加できるまちづくりをして欲しい。人生の学びとしての教育をもっと前面に出してほしい。	これからは地域課題を自分事として解決しようとする若者世代の育成が重要になってくる。そうした若者世代に対する学びの機会と場の提供の拡充に努めていく。
現在の水沢病院の病床を活用（内容変更）してから移転してはどうか。	新病院の病床機能については、今後、専門家の意見を伺い、決定していく。
プロジェクトになぜ医師を入れないのか。なぜコンサルに頼むのか。医師会が賛同できる内容であれば、市民も納得すると思う。	病院建設案を作るためには、客観的且つ定量的なデータが必要であり、それをコンサルに依頼している。地域医療懇話会を開催し、医師等を含めた専門的な知識をお持ちの方々を集めて、意見聴取を行っている。加えて、今回の皆さんのご意見を含め、3月に開催予定の医療懇話会で改めて意見聴取をする。
新病院の建設地に公園は適切ではない。郊外型が良いのではないか。	建設候補地については、コスト面から市有地を前提に考えた。現状の水沢病院の敷地が1万7,400㎡なので、駐車場が手狭な点を考慮し、2万㎡程度の敷地を確保できるところ、また、水沢中心部の賑わい創出につなげていくため、水沢公園を最適候補地として提案した。

各会場における新病院建設に対する質問と回答

発言内容	回答
まちの発展を考えれば、新病院の建設地はJR駅周辺が適当ではないか。土地取得費用の余裕はないのか。	候補地は、今回は案として提示している。敷地面積や利便性も考慮して、水沢公園を候補地としており、皆さんからの意見をお聞きしながら、最終案にまとめていく。財政面への負担を可能な限り減らすために、新たな土地取得は考えておらず、市の所有する土地を利用することを前提としている。
水沢公園の陸上競技場に新病院を建設する際の懸念事項を知りたい。	陸上競技場の機能をどのようにするかという点、病院建設によって渋滞が発生するという点が懸念されている。水沢公園の再整備計画では、公園内体育施設の再配置や周辺道路拡幅についても検討する。
水沢病院の跡地利用はどうするのか。解体費はいくらかかるのか。	新病院が完成すれば、水沢病院は解体して更地にする予定で、住宅地等としての活用も検討していく。解体費用については5億円ほどを想定している。
新病院の建築費について。55億円の内訳は。償還期間は何年か。	新病院の関連で建設工事費として37.5億円。医療機器については6億円、解体費やその他経費で11.5億円と見込んでいる。期間については30年としている。
医師確保が重要。岩手医大や東北大とどのようにつながるのか。大切なのは人間関係。市内のOBの声を聞きながらつながりを確保すべき。フリーで勤務医を選択した医師には魅力のある場所になるのでぜひアプローチを。	医師の確保については、医師自身にお願いしたほうが一番確率が高いと思われる。今後、あらゆるコネクションを利用して、医師確保に努めていく。
新病院を公園に建設すると、現在の水沢病院周辺が空洞化するのではないか。	現地建て替えは、安全性や駐車場の確保の点から難しいと考えた。跡地は更地にすることから、新たなまちづくりの拠点にしていきたいと考えている。
メイプル地下に入っている機能を公園に移動するのが良いのではないか。	メイプル地下にある子育て支援施設については、新病院に移設することも検討する
今は車社会なので、新病院の建設場所はそんなにこだわらなくても良いのではないか。立地適正化計画エリアに建設することで、国から得られる補助額はいくらか。	車社会ではあるが、公共交通の利便性も考えて建設候補地は検討した。立地適正化の補助金は制度上、最大で10.5億円が見込まれる。
未来のことを考えるのであれば、若い世代に情報が届くようにしてほしい。子育て世代と若い世代にどのようにアプローチしていくのか。	広聴広報活動を進めるうえで、奥州市の情報アプリ、「ぼちっと奥州」をより使いやすい形としていきたい。LINEとの連携や子育て支援機能も追加する予定。若い世代との意見交換も行っていく。
新病院の工事期間中について駒形こどもの杜園児への配慮をしてほしい。	工事期間中の安全対策については、大変重要であり、駒形保育園等への説明など万全の手段を講じていく。
在宅医療サービスの充実が必要である。	地域包括ケアが現状で足りているとは思っていない。奥州市で安心して暮らせるように、必要な機能をこの機会に作っていききたいと考えている。
医師会との信頼関係に不安を感じている。叩き台を作る前になぜ信頼関係を保ちながら話し合いができなかったのか。市民としてはそこが恐れているところである。	コンサルティング会社には定量的で客観的なデータ作成を依頼している。そのデータを用いた資料を作成し、医師会との話し合いを行っている。色々な意見が出るということは、それだけ理解が深まっていくことであると考えており、医師会とは今後、さらに意見交換を行い信頼関係を深めていきたい。
水沢病院界隈を区画整理して、現地建て替えの用地を確保すればよいのではないか。	民間地の区画整理については、投資額が膨らみ、建設コストが増大する。市有地であれば土地の部分で費用がかからないという前提での候補地となっている。
県立病院と市立病院の統合は考えなかったのか。	県立病院と市立病院の統合は経営上はメリットがある一方で、医者の一斉退職や市民の反発などのリスクが伴い、簡単にはいかない。県の役割、市の役割がそれぞれあるため、連携する形でこの地域の医療を守っていかうとする考えで今回の案をまとめている。

各会場における新病院建設に対する質問と回答

発言内容	回答
診療所は無床化にしないのか。	ベッドの無床化の検討もしたが、地域の方々への安心の提供という観点、リハビリの病棟を増やすという考えからベッドを持つ形としている。
北上ではオンライン診療（モバイルクリニック）を去年の11月から展開している。奥州市は5年度からスタートのことだが、具体的なスケジュールは。	デジタル診療等に知見のある衣川診療所の近藤医師と一緒に具体的な検討を進めており、令和5年度の後期にはサービス提供を開始する予定。
新病院の収支には人件費が含まれているのか。	資料7、8ページの数値には人件費が盛り込まれている数値となっている。
陸上競技場の周辺というのは、どこまでを想定しているのか。代替建設は考えているのか。	水沢公園は11万㎡ほどあり、病院の用地としては2万㎡を見込んでいる。公園自体が無くなるのではなく、公園自体の再配置等や周辺道路の拡幅等も含めて整備する予定としている。陸上競技場の代替地についても、関係者と協議を行っていく。
少子高齢化が言われているが、魅力ある奥州市のためには、子どもが増えるのが大切。安心して子どもが産める環境づくり、産婦人科、小児科が必要ではないか。	現時点での産科の設置は難しいが、子育て支援を充実させることで、子育て環境の充実につなげていきたい。
ベッド数が気になる。病児のケアは、一般病床50床は厳しいのでは。将来的な拡張性を持たせてほしい。	ベッド数については専門家の意見を踏まえ、さらに検討する。
5つの医療施設を統廃合するという以前の案から方針が大幅に転換したことで、地域医療懇話会の皆さんは面食らっているのではないか。	病院の建設については、合理的な根拠があるかどうか、客観的で具体的に定量的なデータをベースにして示さないといけない。もう一つは、持続可能なプランかどうか。持続可能ということは、将来の担い手である若者が、本当にこれに頼ってくれるかという視点が必要である。それから財務面、これがしっかりと持続可能な財務がつくれるかどうか、医師の方々も含め、改めて意見を聴く機会を3月に設ける予定としている。
医師確保については、医師会の皆さんそれぞれの出身大学の後輩や、仲間に声がけをしてもらえるように頼んではどうか。医師会も頑張るべき。開業医が新病院を応援する、バックアップしてもらえるように。健康診断や予防などをできるように保健センターの併設してはどうか。カルテをデータベース化して活用してもらいたい。	医師を招聘するには、医師からの声がけが一番効果があるので、続けてお願いをしていく。マイナンバーカードをベースとしたデジタル化を進め、手続きの簡略化につなげていきたい。
衣川の在宅介護サービスについて。衣川には在宅介護サービスを受けることができない。瀬原以外の地域は受けられない。この対策について。	介護保険の制度の主旨からしても、保険料を支払っているにも関わらずサービスを利用できないというのは、許されないと思っている。この件、担当課の方にもしっかり伝え、どのように改善できるのか、しっかり検討していく。
在宅医療のニーズが増えている。モバイルクリニックは外部のドクターが診察するのか。モバイルクリニックは看取りまでできないのか。	基本的に来年度は衣川診療所の近藤医師がメインになって、衣川地域内でモデル的にモバイルクリニックを実施する組み立てで動いている。看取りについて、今の医療法上では、オンラインでの看取りはできないと思われる。訪問介護や訪問診療については、可能なものはオンラインでやっていきたいと考えている。
医療、保健、福祉が連動していたときは診療所にもインターンが来ていた。診療所もインターンの受け入れを。	法令の改正によって、若いインターンが地方に行かなくてもよくなった。結果として地方はインターン不足に悩んでいる。若い医者がここで働きたいと思える病院の環境を作っていかなければいけない。
施策6には子育てサポートが掲げられているが、県外の人も利用可能か。	県外の人の利用も可能と考えている。そういうことによって、子育てしやすい街であることをアピールしていきたい。

各会場における新病院建設に対する質問と回答

発言内容	回答
水沢病院のベッド数が随分と減る印象がある。算定根拠を教えてください。	内訳については、回復リハビリ病床50床とその他の一般病床50床、プラス感染症病床を維持するということで考えている。
介護医療院というやり方が良いのではないかな。	今回の新病院については、感染症への対応、リハビリに関する急性期と回復期リハビリに対するシェアということをベースに考えている。胆江地区は、高齢化が進んでいる一方で、リハビリの施設が全国平均に比べて3分の1である。リハビリに対するニーズが多いので、そこにベッド数を当てることによって、医療経営を改善したいと考えている。
手術室は検討段階とのこと。スタッフが複数必要になるので、むしろ手術をせずに県立病院に任せの方が良いのではないかな。	新病院には手術室も備えて、病院での手術、或いはリハビリ病棟に対応する施設も計画する考えだが、決まったものではない。引き続き議論を行う。
産科が無いのは残念。胆沢病院の西に産科の先生のサポートセンターの建設を。県と協議してほしい。	基本的には、産前産後のケアのサポートをしっかり行うこと、タクシー料金や宿泊費用などの経済的なサポートも含めて行う。周産期サポートセンターの機能が新病院に入るような方向性で検討している。
水沢病院には以前は精神科病棟があった。今はおとめがわ病院。できれば市内にも精神科入院施設を。	精神科は、基本的には入院は持たず、現状の外来を維持することを考えている。
前回の説明に比べて水沢病院のランクが落ちたように感じる。施設を残してほしいという考えを考慮し過ぎているのではないかな。県立病院に対抗するのであれば、もっとアピールできるような病院建設を。	必要な機能、新しく求められているものしっかり提供できるよう、周産期、子育て、リハビリなどに特化した、皆さんが必要と感じる病院にしていきたい。
四国九州はなぜ医師が多いのか、なぜ岩手が少ないのか。その理由を把握しているのか。	医師の状況は西高東低となっている。理由として、大学病院の数の違い、医師の報酬レベルの違い。
この奥州市モデルはとても良いと感じる。デジタル、オンライン化の見通しを知りたい。生き残するにはそれが必要だと思う。	全国各地で公共交通の自動運転バスなどの実用化に向けた取り組みが行われているが、当初の想定よりも数年早いペースで進んでいる。遠隔医療は、カルテの電子化と合わせて一気に進むものと考えている。
今回の資料はとても良かった。この内容をほかの市民にどう広めていくのが気になる。	説明をしてほしいという要望があった団体に出向いて、実際に説明をしている。そういう形の取り組みをこれからどんどん進めて、たくさんの方にご理解いただける機会を設けていく。
医療については不足している診療科に対応。県や民間と連携すべき。デジタルネットワークの構築を優先すべき。	限られた医師の中で、多くの患者を診るためには、民間も含めたネットワークが必要であり、今後進めていきたい。
胆沢病院との統合の話し合いを始めるべきだと思う。	市の考えは統合ではなく、5つの市立医療施設、県立病院、民間医療施設との連携を目指しており、具体的にどのように連携していくのかは、今後も検討を重ねていく。